

学 科	服飾美術専攻	担 当 教 員	服飾美術学科全教員		
授 業 科 目	生活文化環境論		科目区分	専門科目	4 単 位
必修・選択	必修	授業形態	講義	開 講 時 期	1 年次・通年
授業の主題 目 標	祖先から培われて来た伝統や文化の中には社会生活を豊かに生きる知恵や自然に対する畏敬の念があります。一方で現在の私たちの生活環境を見渡すとき、経済効率や利便性が優先されがちかもしれません。それらはすべてが相反するものではありませんが、生活文化や生活環境を考えることは単なる知識の集積ではなく、人やモノの関係性をしっかり観ることであり、生き方をデザインすることです。本講義においては各担当教員が私たちを取り巻く日常を多様な観点から、そしてその関係性を紐解きながら問題提起し、受講者の新たな価値基準発見のお手伝いをする授業です。				
授業の内容 進 め 方	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会政策①：大学生の就職活動とその実態(担当：唐澤) 2. 社会政策②：日本の経営、労使関係、雇用形態の多様化(担当：唐澤) 3. 社会政策③：労働者の生活、賃金、労働組合、労働運動(担当：唐澤) 4. 日本の絵画史料から“モノによる事物の区別・意味づけ”を読み取る(担当：松内) 5. 室内空間から都市空間に広がる事物の区別・道具立て(担当：松内) 6. 祭礼空間に見る事物の区別・道具立て(担当：松内) 7. Adobe Creative Cloud による情報発信(担当：大原) 8. G suite と Google Analytics による WEB 作成とアクセス分析(担当：大原) 9. クラウド、AI 社会がもたらす社会変革について(担当：大原) 10. 消費者行動において重要な「記憶」を学ぶ(担当：岩崎) 11. 消費者の態度形成に及ぼす要因とその影響を理解する(担当：岩崎) 12. 消費者の購買意思決定プロセスについて理解を深める(担当：岩崎) 13. 衣服衛生の立場から、人間と衣服環境の望ましい関係を考える。(担当：佐藤) 14. 衣服の機能と快適性・着心地 -肌着、ベビー・キッズアパレル(担当：佐藤) 15. 衣服の機能と快適性・着心地 -UV 対策アパレル、学校制服(担当：佐藤) 16. 科学的、工学的視点から生活文化、生活環境を考える(担当：道明) 17. ものづくりにおける品質や技術、ブランドについて(担当：道明) 18. ものづくりと環境問題について(担当：道明) 19. カルト映画を通じて、時代や社会を考察する(担当：田中) 20. 1950～60 年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について(担当：田中) 21. 1970 年代の音楽表現から見る芸術・文化・社会の考察について(担当：田中) 22. 海外の芸術・文化活動の例(担当：趙) 23. 日本の芸術・文化活動の例(担当：趙) 24. 現代における問題意識について(担当：趙) 25. 日本の文化や環境を視点として、精神を患わすことと社会について考察する(担当：上村) 26. 坂口安吾の日本文化私観について考察する。(担当：上村) 27. 現在の日本の文化や環境について具体的な事例から考察する。レポート提出(担当：上村) 28. 生活環境としての服飾という立場から服飾の今日的意義を考える(担当：乾) 29. 衣生活の振り返り(担当：乾) 30. 衣服の入手方法と服飾への価値観の変化について(担当：乾) <p>各教員の担当順は都合により変更することがある。</p> <p>定期試験は実施しない。</p>				
実務経験を 活かす内容					
テ キ ス ト 教 材	各担当教員が資料を配布する。 参考図書:松生勝編著『アパレル科学概論』朝倉書店, 坂口安吾『日本文化私観—坂口安吾エッセイ選』(講談社文芸文庫)講談社, 『平成30年度80テーマで要点整理 IT パスポートのよくわかる教科書』技術評論社				
準備学習の 具体的内容	各担当教員が配付する資料や参考図書などの該当箇所を参照し、学習内容に応じて適宜、予習・復習を行うこと。				
評価の方法 基 準	提出課題(80%) 受講態度(20%)				
履 修 上 の 注 意	学位授与機構に申請する際の「家政学に関する総合的な科目」に相当する。 各教員の担当順は都合により変更することがある。				